



「ONE 関西」で広域観光振興を ～EXPO2025関西観光推進協議会の取り組み～

本年4月に2025年大阪・関西万博が開幕したこともあり、強力な追い風が吹いている日本・関西の観光。2025年上半期の訪日外客数は2,151万人を超え(日本政府観光局統計)、この時期では初めて2,000万人を突破した。この活況に一役買っているのが、広域観光の促進を通じて、万博開催の効果を関西一円に波及させることを目的に、2023年3月に設立された「EXPO2025関西観光推進協議会(以下、協議会)」と協議会が進めてきた「万博プラス関西観光推進事業」である。今号では、協議会を中心とした関西の広域観光振興の取り組みについて紹介する。

「EXPO2025関西観光推進協議会」とは

協議会には、関西2府8県4政令市・民間企業・関西広域連合および関経連など合わせて44団体が参画、事務局を関西観光本部(理事長：松本正義 関経連会長)が務めている。設立時(2023年3月)に採択された「EXPO2025関西観光推進宣言」では、参画団体が密に連携し「ONE 関西」として、関西の未来社会を見据えながら、万博開催期間を含む3年間(2023年度～2025年度)に万博および関西観光への誘客など広域観光を集中的に推進し、関西の活性化に寄与することがうたわれており、以降、協議会ではメインターゲットである海外からの万博来場者350万人*1を万博会場から関西一円へ送り出すことで“KANSAI”の国際的な認知度を高め、世界的な観光デスティネーションとすることをめざし活動を進めている。

*1 2025年日本国際博覧会協会の想定値。



「EXPO2025関西観光推進協議会」設立共同会見

協議会が取り組む 「万博プラス関西観光推進事業」

協議会が取り組んでいるのが「万博プラス関西観光推進事業」である。その内容は、関西各地の魅力的な観光コンテンツの収集・整理、旅行商品の造成、リアル・デジタル両面でのプロモーションを通じた

販売促進といった関西広域への誘客を促進するための取り組みのほか、人的サポート体制の充実や万博会場内での観光ブースの設置、安全・安心な旅に必要な情報を提供するWebゲートウェイの整備等、多岐にわたっている。各取り組みの概要は以下のとおり。

■ EXPO関西旅行商品造成

観光コンテンツを活用した旅行商品造成を促進し、関西広域観光の拡大につなげる取り組みとして、協議会の参画団体が推薦する774件の観光コンテンツ情報を「観光コンテンツトリフ*2」として取りまとめた。国内外の旅行会社が利用しやすいよう、観光コンテンツ情報を特性に応じて多言語に翻訳した上で、冊子版・デジタル版で提供を行っている。

また、国内の旅行会社やランドオペレーター(旅行サービス手配業者)を対象とした商談会の開催、海外の旅行会社に対する個別の働きかけ、OTA(Online Travel Agent)等での商品化にも精力的に取り組んでいる。結果、関西圏全体で277の旅行商品造成につながり(2024年度までの累計)、海外市場に関西各地の観光コンテンツが流通する環境が整った。

*2 旅行会社・取引業者向けに手数料や取り扱いのルール等を、具体的かつ詳細に記載した説明書。

■ リアル・デジタル両面でのプロモーション

リアルプロモーションとしては、海外の旅行博をはじめ、展示会および商談会への積極的な参加により万博の機運醸成や観光コンテンツの旅行商品化を働きかけた。また、近畿運輸局、関西エアポート、関西イノベーションセンターと連携し、2024年10月に関西国際空港内に「ファーストパビリオン・観光PRブース」を設置。大型モニターでタッチ操作も可能な「関西広域デジタルマップ」や、関西各地の観光地を映像・音声・触覚で体感できる「バイブロスケープ(触覚風景)」を提供している。万博開催期間中は、映像・音声・触覚・振動を双方向に送るこ

とができる「ふれあう伝話」が設置されており、万博会場の日本館の来場者とハイタッチした感覚を共有できる。物理的な距離を超えた「そばにいる感覚」を体験することで万博への関心を喚起している。

デジタルプロモーションとしては、関西の観光情報サイト「The KANSAI Guide」内に「万博プラス 関西観光特集」ページを開設し、観光コンテンツ情報の掲載に加え、各コンテンツ情報からOTA等への販売につながるWeb導線を整備。また、同サイトへ効果的に誘導するべく、デジタル広告やSNSを活用した観光コンテンツ情報の発信にも注力している。

■ 旅ナカ・安心サポート

旅行者の滞在時間を増やしたり、消費拡大をはかたりするには、観光および安全・安心に関する情報等をわかりやすい形で提供し、快適な観光を実現する環境を整備することも肝要である。そこで、取り組みの一環として、通訳案内士やホテルコンシェルジュ等を対象としたセミナーやファミトリップの実施により人的サポート体制の一層のレベルアップをはかった(2024年度までの参加者延べ2,822名)。また、84エリア(2024年度までの累計)のマップを収録する広域観光デジタルマップの整備・公開にも並行して取り組んだ。一方、手元で見られるツールへのニーズも根強いと、万博関連情報や関西の広域地図、各エリアへの交通アクセス、安全・安心情報等を網羅的に掲載した紙の情報ハンドアウトキットも作成・提供している(図1)。

図1 ハンドアウトキット
「KANSAI, JAPAN TOURIST GUIDE」(抜粋)



万博会場(フェスティバル・ステーション)内には観光ブース「KANSAI Tourist Information」を設置した(右上写真)。関西観光のPRや旅行商品の案内のほか、協議会参画団体が日替わりで出展し、観光クーポンが当たる抽選など工夫を凝らしたPR活動を展開しており、多い日には1,500名を超える来訪がある。訪日リピーターは定番以外のスポットを探す方が多く、新たな観光地を知ってもらう機会となっている。

万博会場内観光ブース「KANSAI Tourist Information」



■ 関西広域観光情報ゲートウェイ

訪日観光を検討する層に必要な情報を一元的に提供するため、関西の観光スポットや旅行商品に加え、交通、宿泊、飲食体験、お土産・伝統工芸品、天候・災害等の情報をワンストップで提供する「The Gate to KANSAI(G2K)」を構築、本年1月末に公開した(図2)。「KANSAI Tourist Information」での案内にも活用しており、来場者から好評を得ている。

図2 関西広域観光情報ゲートウェイ
「The Gate to KANSAI」



ポスト万博を視野に

関西では万博閉幕後も「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催や神戸空港の国際定期便就航等が予定されており、外国人旅行者数のさらなる増加が見込まれる。この好機を関西広域観光の振興につなげるためには、本事業で得た観光コンテンツのデータ、来場者の評価、デジタル基盤をはじめとする成果を今後どう活用するのが重要となる。

当会では、関西観光本部と一体となり、万博レガシーとしての広域周遊観光の促進に資する事業や、関西観光をさらなる高みに引き上げる仕組みの検討などに引き続き尽力していく。

(産業部 後藤聡太)

関西広域観光情報ゲートウェイ
「The Gate to KANSAI」
<https://www.the-kansai-guide.com>

